



春のナースウェーブ、100人参加 当日の医師・看護師・介護職員の増員署名は110 筆集約 5月末、12,346筆になりました！日本 医労連通じて、国会へ 6月から新署名開始！

2014年春のナースウェーブを5月17日（土）コープイン京都にて100人の参加で開催しました。集会では、労働科学研究所慢性疲労センターのセンター長の佐々木司氏を招き、夜勤の健康・安全・生活リスクをテーマに夜勤の有害性について学びました。集会後には、四条河原町にて約40人で宣伝を行い、府民のみなさんから署名110筆の協力をいただきました。



講演では、生体リズムに反する夜勤は身体に悪い影響を及ぼす、夜勤は酒気帯び運転と同じ状態、16時間夜勤は外国ではまずない勤務シフト、正循環勤務の方が生活・身体・社会的にみてベター、疲労回復の徐波睡眠・ストレス解消のレム睡眠のバランスが大切、感情労働である看護労働はレム睡眠をとることが重要、夜勤をしている女性は乳がん・男性は前立腺がんになりやすい、国際がん研究機関もgroup2A（ガンになりやすい状況）と認定するなど、最新の知見・研究成果を活用し、夜勤の有害性をわかりやすくお話いただけました。

参加者は、「夜勤が有害だとよく分かった」「夜勤は慣れると思っていましたが、身体のリズムが変わらない、人体に与える影響があることを知り、驚きました」「夜勤と睡眠の関係が分かった」「有害な夜勤だが、「必要悪」なので、看護師を増員して回数を減らすようにしたい」「佐々木先生は、夜勤を辞めたいと思う人が、ちゃんと辞められるような社会、職場にしないといけない、と言われた。夜勤をやめたい人がやめられるようにするには、看護師を増やすこと」「外国の労働状況を聞き、日本人が働きすぎといった感覚を持つことが出来ました」「私は新人の看護師。先輩の働き方を見ていると本当に出来るのか不安。患者さん自分たちにとって安全な環境をつくるのが重要な課題と理解しました。」などの声が寄せられました。



「やっぱり夜勤は有害。夜勤を規制して、大幅増員で患者さんの安全・安心を守ることが大切！！」と、集会後さっそく、実践しました。四条烏丸にて署名宣伝を行いました。